

2020年10月期第3四半期 決算説明会

2020年9月15日

パーク24株式会社

取締役 専務執行役員 経営企画本部長

佐々木 賢一



PARK24 GROUP

東証一部	4666
Ticker Symbol	PKCOY

本日は第3四半期決算説明会にご参加いただきありがとうございます。

プレゼンターを務めます佐々木でございます。

よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで
お悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々及び感染拡大により
困難な生活環境におられる皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

また、過酷な状況下において活動されている医療従事者をはじめ、
感染防止に奮励されている方々、社会や生活の安定に必要な事業
に携わられている方々のご尽力に心より感謝申し上げます。

まず初めに、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々及び感染拡大により困難な生活環境におられる皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

また、過酷な状況下において活動されている医療従事者をはじめ、感染防止に奮励されている方々、社会や生活の安定に必要な事業に携わられている方々のご尽力に心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、第3四半期累計実績は赤字決算

(単位：億円)

	20/10実績 第3四半期累計	19/10実績			20/10当初計画			20/10修正計画		
		第3四半期累計	差額	比率	第3四半期累計	差額	比率	第3四半期累計	差額	比率
売上高	2,004	2,326	▲321	86.2%	2,433	▲428	82.4%	1,955	+49	102.5%
売上総利益	265	553	▲287	48.0%	607	▲341	43.7%	189	+75	140.1%
営業利益又は営業損失(▲)	▲118	146	▲264	-%	168	▲286	-%	▲224	+106	-%
経常利益又は経常損失(▲)	▲128	139	▲267	-%	160	▲288	-%	▲227	+99	-%
親会社株主に帰属する四半期純利益又は四半期純損失(▲)	▲122	78	▲200	-%	102	▲224	-%	-	-	-%
海外のれん等*の償却額	20	22	▲1	94.3%	21	▲0	96.2%	-	-	-
海外のれん等*の償却前 経常利益又は経常損失(▲)	▲107	161	▲269	-%	181	▲289	-	-	-	-

* のれん+契約関連無形資産

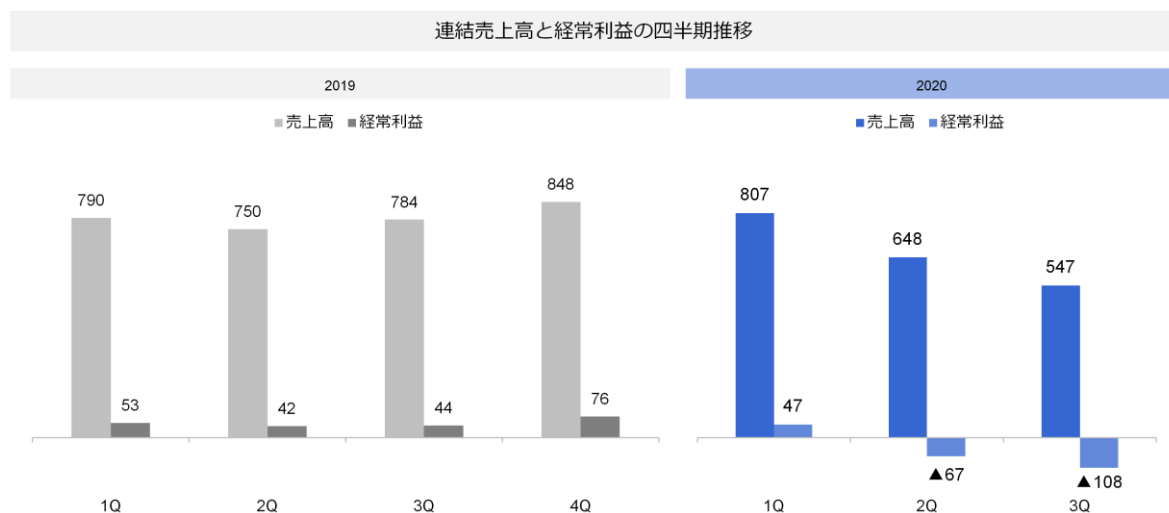
▶ 2020年6月15日公表の修正計画に対して、売上高・各段階利益または損失ともに上振れて着地するも、営業損失以下の赤字額は2Q比で大幅増

3Qの業績ですが、売上高は2,004億円、営業損失118億円、経常損失128億円、親会社株主に帰属する四半期純損失は122億円となりました。

2Q決算（6月15日）にて開示した今期の修正計画よりは上振れて着地しましたが、2Qより赤字幅が増加している状況です。

それを示しているのが次のページです。

第3四半期期間(5-7月)は大幅減収、大幅赤字



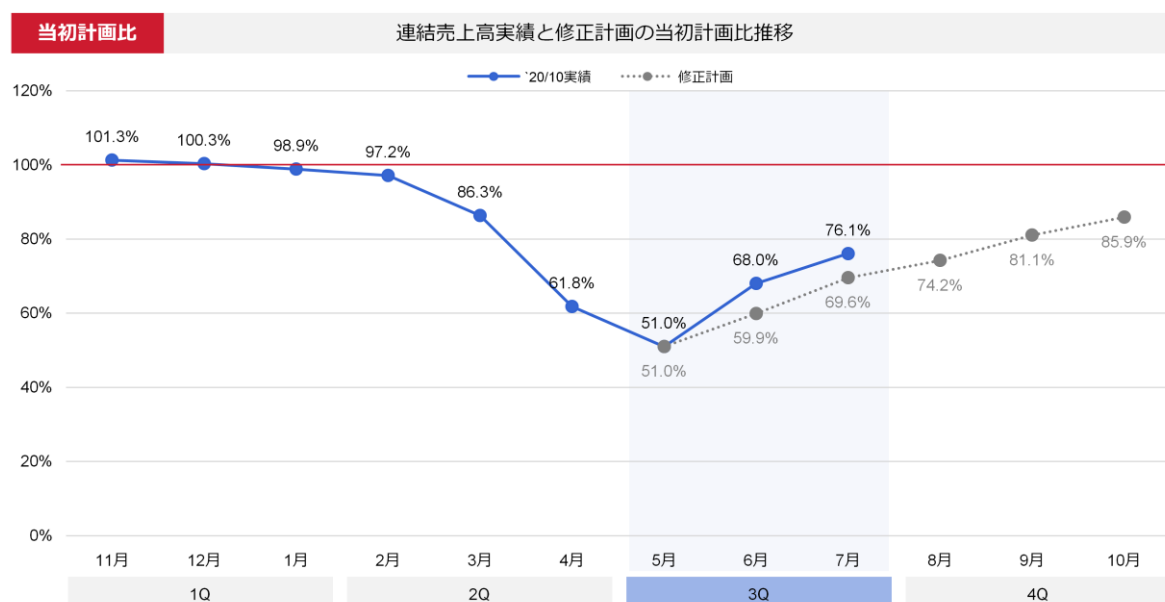
- ▶ 1Qは2019年10月の消費増税の対応及びその影響により、前年同期比減益となるも当初計画を超過
- ▶ 2Qから新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)拡大の影響で人の移動が減少、伴って各サービスの利用が減少し減収、経常損失に転落
- ▶ 3Qは全サービスの稼働の最低月(国内事業5月、海外事業4-5月)が含まれるため、四半期の中でも売上高は最低、経常損失は最大

こちらのグラフは、売上高と経常利益の四半期ごとの推移になります。

1Qは感染症の影響を受けていませんでしたが、2Qは4月が最も影響を受け、それに伴って経常損失67億円となりました。

3Qの経常損失は108億円となり、赤字幅が拡大している状況です。

第3四半期期間 6-7月の連結売上高は修正計画比超で推移

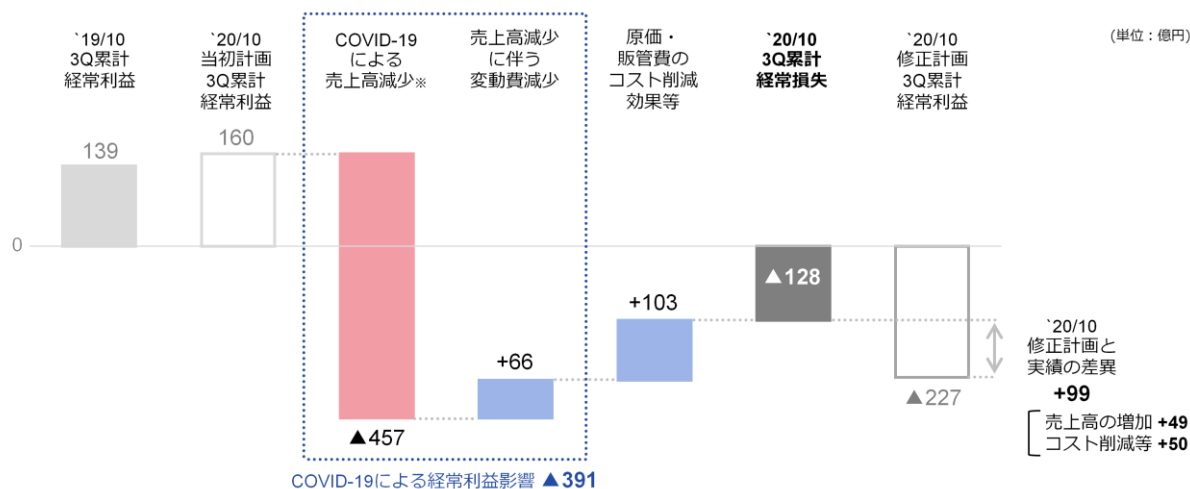


こちらのグラフは売上高全体の推移になります。

修正計画として出させていただいた数値は灰色点線で示されており、7月までの実績は青実線で示されています。5月は実績が計画に対して51.0%だったところ、6月は68.0%、7月は76.1%と回復状況は想定よりも高かったという状況になります。

ちなみに8月は、特に駐車場において感染症の罹患者数が増加したことに伴い回復が鈍化しているところもあり、全体で76.3%と灰色の修正計画74.2%より2.1pt高い着地となっていますが、6-7月よりは回復幅が縮小している状況です。

経常利益 当初計画と実績及び修正計画と実績の差異分析



- ▶ 売上高減少に伴う変動費等はモビリティサービスの燃料費や駐車場の売上運動地家賃等
- ▶ 原価のコスト削減は、駐車場事業の地代家賃改定、管理・メンテナンス費用の見直し等
- ▶ 販管費のコスト削減は、取締役をはじめとする人件費抑制、ICTシステム関連投資の抑制等

※「COVID-19による売上高減少額▲457億円」と3ページの「‘20/10計画差額▲428億円」の差は、売上高実績が当初計画より上振れたことによるもの

こちらのチャートは、こういった形で感染症の影響を受け、またコスト削減策をした結果、こういう経常利益になった、ということを示しています。

棒グラフの左から2つ目、当初計画では160億円の経常利益を想定していました。

感染症の影響で457億の売上高が毀損、一方で売上高の減少に伴い変動費が66億円減少した結果、感染症影響と当社が認識しているのは青点線で囲った部分の391億となります。

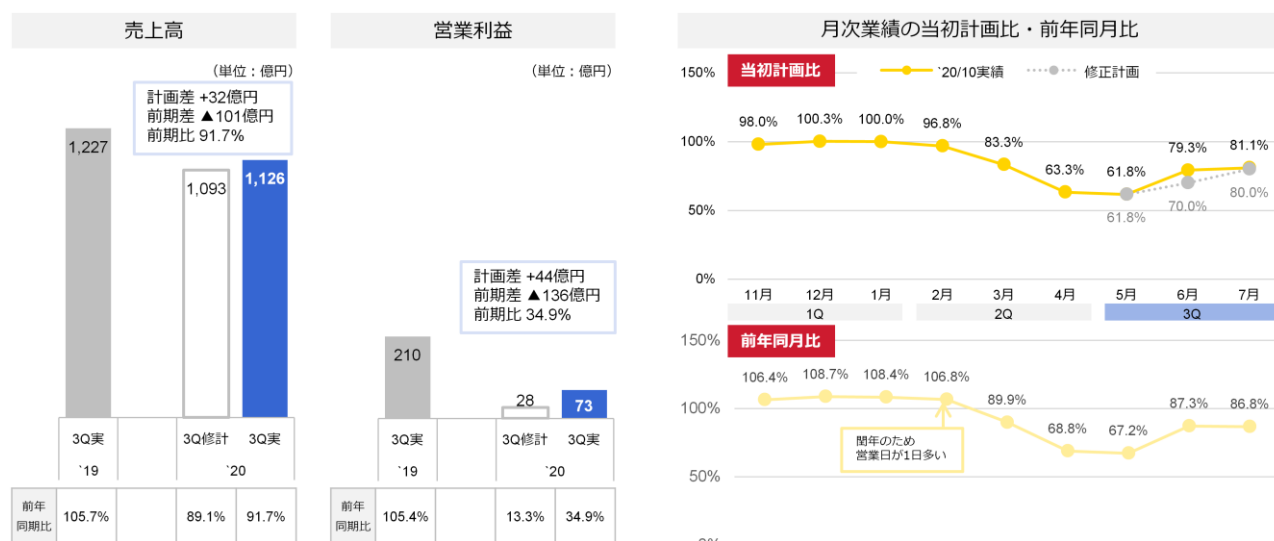
また、コスト削減として、さまざまな原価・販管費の削減を行っています。

これはほぼ3Qの影響額でプラス103億円となり、これらの結果、3Q累計の経常損失が128億円になりました。

またその右に、修正計画における3Qの着地が経常損失227億とあり、これと当3Q累計実績を比較しますと、99億のプラスとなります。

これは先ほどご説明した売上高の回復が、想定より49億円上回ったことと、主にコスト削減が予定より50億円効いたことによるものです。

売上高は5月を底に回復基調、6月は想定以上の回復、7月はほぼ想定通りの回復



- ▶ 6月業績が想定以上に回復したことに加え、地代家賃改定等のコスト抑制が修正計画より進捗したことにより営業利益は修正計画超
- ▶ 新規物件の厳選開発、赤字物件の縮小により、
タイムズパーキング 19,361件(前年同期末差+924、同比105.0%)、610,171台(同差+15,948、同比102.7%)

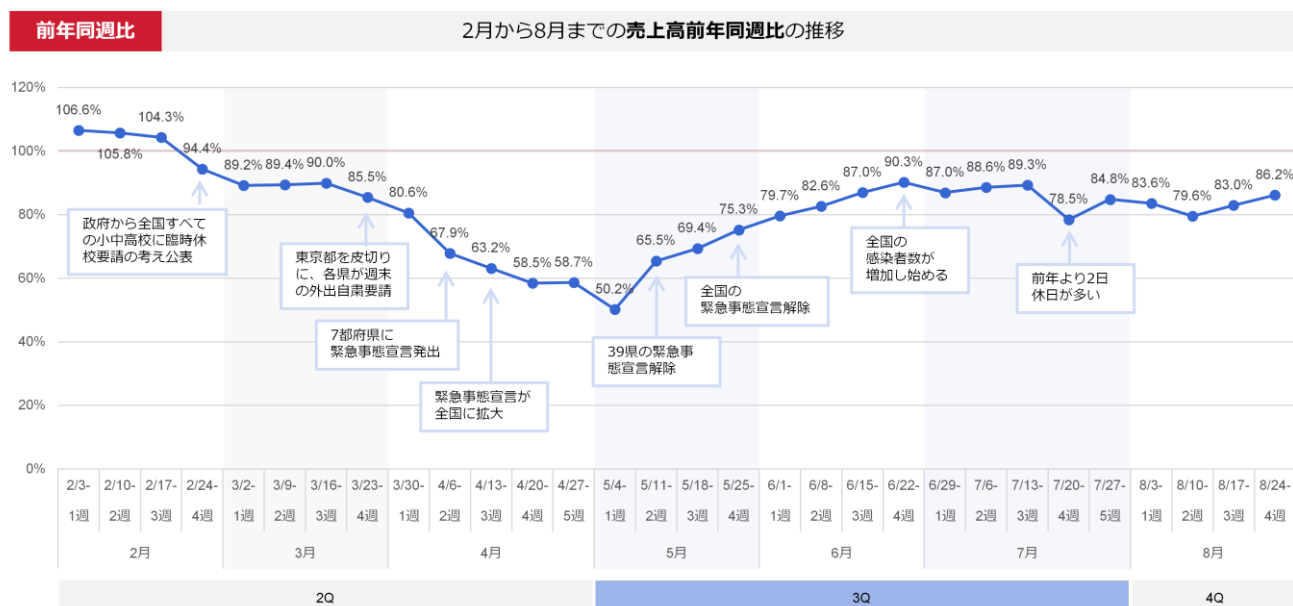
次に事業別にご説明をさせていただきます。

国内の駐車場事業は、売上高1,126億円、営業利益73億円というのが3Q実績です。

右側の折れ線グラフは、上が当初計画比の数字です。

6-7月実績は修正計画より多少上振れており、約44億円程プラスに効きました。

売上高は5月1週を底に6月まで好調に回復、7月は感染者数が増加したことに伴い回復鈍化

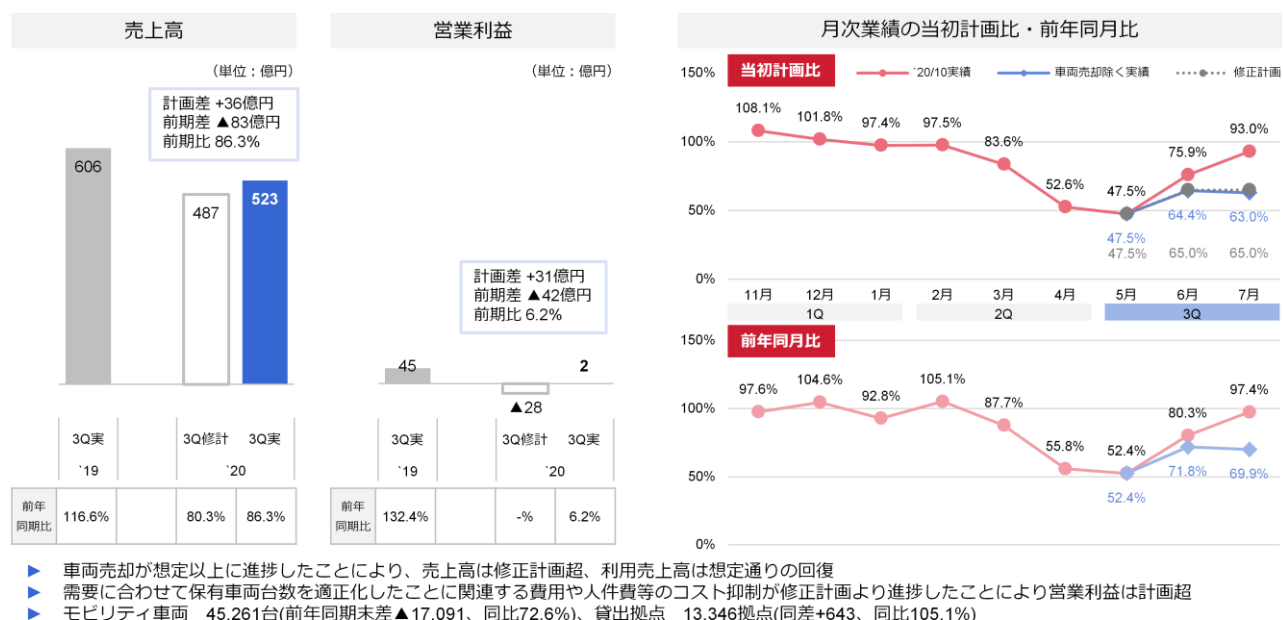


当ページは週次で前年対比の状況を示しており、月次で開示をしている数値をプロットしたものになります。

5月1週目を底に6月にかけて順調に回復してきていましたが、7月の初旬から感染者の増加の影響を受け、回復が鈍化しました。

一方で、足元では7月5週目から8月にかけて新規感染者数の減少に伴い、再び回復基調になっています。

売上高は5月を底に回復基調、6-7月は車両売却が想定以上の進捗で売上高押し上げ



次にモビリティ事業です。

3Qの実績としては、売上高523億円、営業利益で2億円となっています。

右上のグラフについて、少し注意しないといけないのが、今回、特にレンタカーについて、5月の段階でかなりの台数を減車しました。

4月末まで、レンタカー車両として約27,000台保有をしていました。

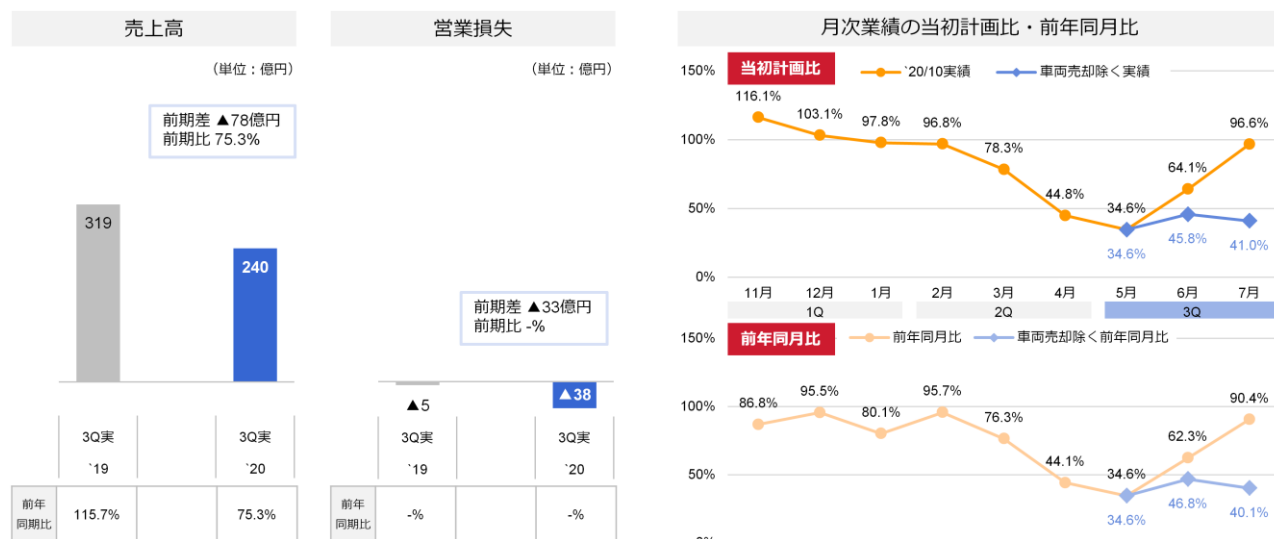
そのうち7,000台がFCの車両、20,000台が直営店舗の車両です。

5月の段階で、直営店舗の車両の半分である10,000台を減車しました。

減車した車両を売却し、売上として計上されており、実際の利用料としては青色で示している線となります。

そのため、売上の回復が非常に速いというわけではなく、ほぼ計画通りに回復しているという状況になります。

売上高は5月を底に回復するも、6-7月は車両売却が想定以上の進捗で売上高押し上げ



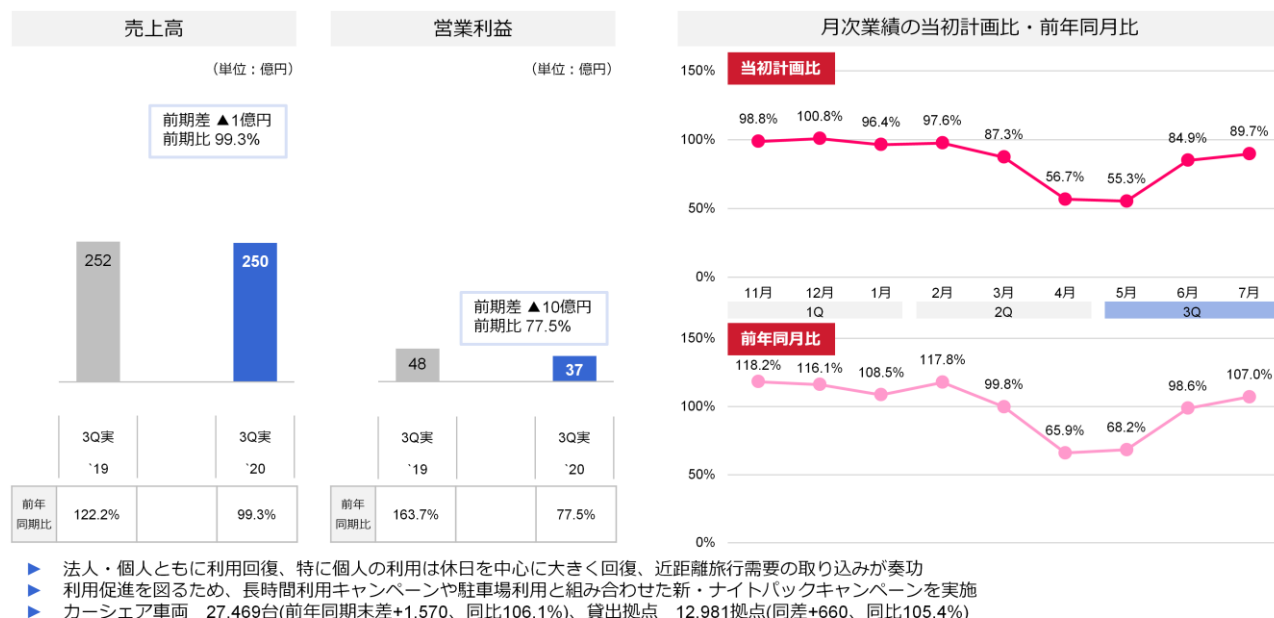
- ▶ 6-7月は中古車市場の回復により車両売却は想定以上に進捗し、売上高を押し上げる
- ▶ 車両売却を除く利用売上高は想定より若干下回る回復、インバウンドや国内の旅行観光需要は引き続き低調のため夏季の稼働も低調
- ▶ レンタカー車両 17,792台(前年同期末差▲18,661、同比48.8%)、貸出拠点 365拠点(同差▲17、同比95.5%)

当ページはレンタカーです。

右上のグラフに示している通り、売上は5月が計画対比34.6%となっており、若干は改善しているものの、やはりインバウンドや国内旅行の需要が戻りきらず、前年対比の利用売上は40%程度で推移をしています。

その結果、売上高240億円、営業損失38億円という実績になっています。

売上高は5月を底に大きく回復、7月の売上高は前年同月比超まで回復



カーシェアは、売上高250億円、営業利益37億円となっています。

右上の折れ線グラフのとおり、順調に回復しています。

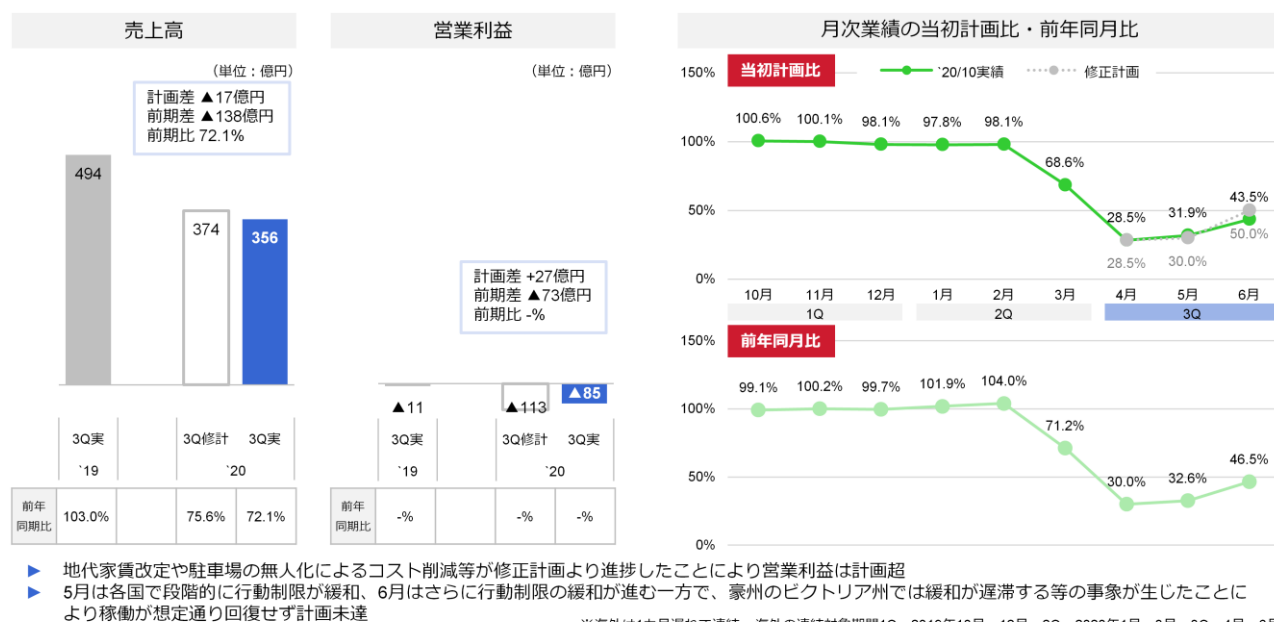
また、前年同月比（右下のグラフ）のとおり、7月は前年を上回る状況となっています。

8月の状況として前年同月比100%を超えています。

長距離の行動が制限される中で近場のお出かけや移動のニーズが強く、カーシェアについてはほぼ回復していると言っているかと思います。

このような状況を踏まえ現在は、直営レンタカー車両の残り10,000台をできるだけ早期にカーシェア化するよう取り組んでいます。

売上高は4月を底に回復基調となるも、6月売上高は想定を下回る



海外での駐車場事業については、1ヶ月遅れての連結取り込みとなるため、3Qは4-6月となります。

実績としては売上高356億円、営業損失85億円となっています。

回復状況は右上のグラフの通り、ほぼ当社が作成した修正計画通りではありますが、6月については売上高が少下振れました。アジア圏は日本以上に戻りが早く順調に回復しましたが、英国およびオーストラリアで回復が遅れたことが主な要因です。

足元の状況として、英国については、計画通りではないものの、ロックダウンの段階的な解除や、9月からの学校再開などにより前年同週比2-3ptずつ回復している状況です。

一方オーストラリアについては、メルボルンがあるビクトリア州などの大都市でのロックダウンが9月末まで延長されたことなどの影響で、回復が少し遅れている状況です。

第3四半期に引き続き、グループ全体及び各事業における取り組みを強化

グループ全体

1. グループ費用の厳格な選別によるコスト削減

2. 来期以降の利益成長に向けた取り組みの検討

駐車場事業国内

1. 新規開発の厳選
2. 恒常的赤字物件の縮小
3. 新規取組事項の一時凍結
4. 事業内費用の徹底見直し
5. 地代家賃改定をお願い

モビリティ事業

1. タイムズカーの強力推進
2. 保有車両台数の適正化
3. 店舗運営の効率化
4. 事業内費用の徹底見直し
5. 利用促進の取組強化

駐車場事業海外

1. 各国版タイムズパーキングの開発促進
2. 駐車場運営方法の見直し
3. 地代家賃改定をお願い
4. 収益管理の厳格化

以上の3Qの状況を踏まえた上で、当社の取り組みは2Q決算説明会（6月15日）にご説明したものから変更はなく、3Qで行った取り組みを今まで以上に強化していこうと考えています。

大きくは、「感染症により減少した売上高に対し、コストをアジャストさせていく取り組み」と、「来期以降の成長に向けての取り組み」です。

事業別では、駐車場事業については引き続き、厳選開発や恒常的赤字物件の縮小、土地オーナー様への家賃改定をお願いなどを行なっています。

モビリティ事業については、タイムズカー（レンタカーのカーシェア化）を強力に推進します。

これは、今後レンタカーの需要がどこまで戻るか不透明な中で、非常に好調なカーシェアに舵を切っていく狙いです。タイムズカー推進のため、店舗運営の効率化やより利用していただくための取り組みをより一層強化していきます。

具体的には、7月から、カーシェアの長時間利用料金をキャンペーンで安くし、レンタカーに対しても競争力を有する価格設定にするといった取り組みを行なっています。

海外事業については、感染症の影響を強く受けている中でも収益が確保できるよう運営体制を見直したり、（かねてより取り組んでいる）各国版タイムズパーキングの開発促進などにより事業ポートフォリオを入れ替える取り組みを行なっています。

第3四半期累計は修正計画超で着地するも、事業環境は依然として不安定であるため修正計画を維持

(単位：億円)

	20/10当初計画 通期	見直し			合計	20/10修正計画	
		COVID-19影響	コスト削減等	その他		通期	前期比
売上高	3,330	▲700	-	-	▲700	2,630	82.9%
売上原価	2,467	▲57	▲83	-	▲140	2,327	97.2%
売上総利益	863	▲643	+83	-	▲560	303	38.8%
販売費及び一般管理費	596	▲13	▲38	-	▲51	545	97.7%
営業利益又は営業損失(▲)	267	▲630	+121	-	▲509	▲242	-%
営業外損益	▲12	-	+4	-	+4	▲8	-%
経常利益又は経常損失(▲)	255	▲630	+125	-	▲505	▲250	-%
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は四半期純損失(▲)	165	▲630	+125	+85	▲420	▲255	-%

- ▶ 売上高 ▲700億円
下期 5月は実績(海外は4月実績)で当初計画比約50%、6月以降は経過月ごとに約5-10%で改善、当期末の10月は同約85%の見込み
- ▶ 営業費用 ▲190億円
売上高減少に伴う費用の減少(変動費分)、各事業の運用効率化、グループ全社経費削減を強力に推進
- ▶ 上記収益状況を鑑み、当期配当は無配の計画

これらを踏まえ、今期のガイダンスについては、2Q決算説明会で開示した修正計画通りと考えています。

足元、感染者数の減少により国内駐車場などは回復基調ではあるものの依然として不透明な状況のため、修正計画を維持させていただきます。

以上、第3四半期の決算の概況を説明させていただきました。

免責事項

本資料に記載されている業績目標・戦略並びにその他の記述のうち過去の事実でないものは、いずれも当社が現在入手可能な情報を基にした見通しとなります。

実際の業績等は、経営環境の変動やその他の不確実な要因により、これら見通しと大きく異なる場合があります。